

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Photo: 8th Avenue, New York

《 Dear Old 8th Avenue 》

今回はニューヨーク生活の中でも特に思い出深い、懐かしの 8th Avenue の話。1994 年から 2001 年までニューヨーク市長を務めたルドルフ・ジュリアーニによる治安改革や再開発を機に、また、2001.9.11 のアメリカ同時多発テロ以降は加速する形で、マンハッタンの中心部からハーレムに至るまで街が整備されクリーンになっていったようだが、ニューヨーク生活を送っていた頃は、まだまだ治安が良くなかった。

8th Avenue はマンハッタンの西側を南北に走る通りで、ウェスト・ヴィレッジのアビングドン・スクエアから、59th Street のコロンバス・サークルまで続く北向きの一方通行

だが、特に 42nd Street から 51st Street の間は慣れ親しんだエリアだった。というのも、住んでいた訳ではなく、4 年間お世話になったレストランが 45th Street と 8th Avenue の角近くにあったため、年中出歩く機会があったから。

一番の思い出は、以前このコーナーでも紹介した《ハニー》。ほぼ毎晩、夜 11 時を過ぎた頃になるとどこからともなく現れて店の 8th Avenue 沿いのアーケードの下に立って男性客を待っていた外国人女性。店の裏口がドアの開閉のためちょっとした窪みになっていたのだが、その辺りは冬になるとホームレスの寝床になったり、酔っ払いが立ち小便をしたり、吐いたり、ドラッグの売人と客の取引の場になるような結構危ない場所でもあった。出勤の時は、閉店間際の夜 11:30 頃になるとシャッターを閉めに行くのが日課になっていたため、最初の頃は恐怖感もあったが、ハニーをはじめ毎晩同じような顔ぶれがいるため、毎晩声を掛け合う仲になるのにそれほど時間は掛からなかった。

また、51st Street には「ワシントン・ジェファーソン・ホテル」という強烈なインパクトのホテルがあった。現在も同じ名称で経営が続けられているようだが、慣れ親しんだのは豪華にリニューアルされる前。このホテルには一緒にレストランで働いていたキッチンのシェフやウェイター仲間が住んでいたのだが、当時は怪しさ&危険度満点だった。だが、住めば都とはよく言ったもので、慣れると怪しさや危険度は薄れ、住んでいた仲間も快適そうに暮らしていた。

42nd Street 方面にはポルノショップやビデオ屋が軒を連ねていて、42nd Street を渡るとポート・オーソリティー・バスターミナルがあった。この辺りは日が暮れると無闇に近づかない方がいいと言われていたが、8th Avenue と 42nd Street が交わるエリアから数ブロックは日が暮れると街の様子も日中とは一変した。

当時からかなりの時が経ち、ニューヨークもすっかり綺麗な街に変わりつつあるようで、犯罪や事件が減ることは何よりだが、嘗てのニューヨークならではの危険で怪しげな雰囲気が消えてしまうことは何となく寂しい気もする。今回はスタンダードとしても親しまれ、大好きなジャズ・ページスト、ポール・チェンバースの名演でも知られる「Dear Old Stockholm」(アルバム『Bass On Top』に収録)に触発されて、懐かしのニューヨークの風景に触れてみました。

Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

Goodguys Music & Sound

グッドガイズ・ミュージック&サウンド

今回はホノルルのカウキ地区カパフル・アヴェニューにある楽器専門店「グッドガイズ・ミュージック&サウンド」。ウクレレの他、アコースティック・ギターやエレキ・ギター、エレキ・ベースやアンプ、エフェクター、弦など、ブランドも豊富で新品から中古楽器まで扱っている。1999 年に開店して以来、日本の有名ミュージシャン達も通う隠れ名店。共同オーナーのクレイ・ナカソネさんとパイロン・アオヤギさんをはじめ、店員さんも気さくで、音楽好きにお勧めのお店。インスタグラムやブログも要チェックです。

HP: <http://www.goodguysmusic.com>

《ハワイな一枚》



ソングス・オブ・ハワイ

Various Artists

World Of Music [Import CD]

「カイマナ・ヒラ」「ハワイアン・ウェディング・ソング」「アロハ・オエ」「ハワイアン・タトゥー」「フラ・レディ」等、全 15 曲のハワイアン・ソングを収録。